

# 北海道医療センターニュース

## H 山の手だより

【理念】「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」



**■発行所／**  
 独立行政法人 国立病院機構  
 北海道医療センター  
**■発行責任者／**  
 事務部長 小野寺 正逸

札幌市西区山の手5条7丁目1-1  
 電話(011)611-8111  
 FAX(011)611-5820  
 ホームページアドレス/  
<http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>

## 第5号

2012年10月発行

### 24年度後半スタート

院長 菊地 誠志



8月12日、多くの感動を残してロンドンオリンピックが閉幕しました。日本は過去最多のメダルを獲得し、熱い戦いは終了しました。ところが、暑気は8月下旬から再び盛り返し、9月は歴史的な残暑となりました。しかし、もう10月、平成24年度後半がスタートします。

今年度前半については、リスタートプランの目標には達していませんが、DPC対象病院として、無難なスタートをきることが出来ました。今年度後半、さらには来年度に向けて、着々と事業を進めていくことが出来そうです。

今年度初めに、当院は、ゆとりある職場環境の整備を目標に掲げました。医師、医療スタッフの業務軽減のため、医師事務作業補助者を採用する予定です。一足先に導入した糖尿病・脂質代謝内科と婦人科の医師からは大変助かっているとの声が聞こえてきています。順次人数を増やす計画です。また、DPC体制となり、在院日数が急激に短くなったことで、看護スタッフの疲弊が危惧されています。夜勤体制の補強、救急部・ICU運営の効率化、手術部看護師の増員、7:1看護体制への準備のため、看護師の大幅増員を計画しています。看護師確保は、札幌でも益々困難になっている状況ですが、当院のミッションを理解いただき一緒に働いてくれる人材を熱望しています。その他の部門でも、コメディカルスタッフの増員も計画していますが、ゆとりある職場で、誇りを持って仕事をし、さらなるキャリアアップを目指して研鑽してもらいたいと考えています。

初期臨床研修医は、職場に活力を与えてくれる得難い存在です。残念ながら過去に実績のなかった当院には、基幹型研修医として2名の枠しかありませんでした。来年度はそれが3名に増えます。しかし、来年度の基幹型研修医枠に応募してくれた学生が9名もあり、嬉しく思う反面、まだまだ定員枠が不足しているということを実感しています。大学から派遣されてくる研修医も来年度は今年度の7名(1年目+2年目)を越えるのではないのでしょうか。

なお、リスタートプラン実行計画で申請していた医療機器、設備(3テスラMRI、院内ICU設置、手術室増設)が承認になりました。運用は来年度以降になりますが、当院はさらにグレードアップしていきます。

地域医療支援病院をめざして、連携登録医への参加をお願いしました。登録していただいた162件の医療機関名が、玄関左に掲示してあります。これらの医療機関の方々の期待に応えられるよう努めていかなければならないと思っております。

臨床研究の推進も当院の大切な使命です。臨床研究部の発足から2年たらずで、昨年は、全国の機構病院144病院中28位と、すばらしい成績を納めました。今後も、医学会・医療界に情報発信を続けていくことは、人材育成にもつながると考えています。第9回日本難病医療ネットワーク研究会の全国大会も当院が担当しました(9月28日～29日)。

新病院になっても、意識改革・意思統一が進んでいないのではないかとの意見を耳にします。これについては、草の根的なQC(Quality Control)活動を通して醸成して行ければと考えています。看護部だけでなく、他のスタッフ、特に医師を巻き込んだ活動に期待しています。

さて、国立病院機構西群馬病院から施設見学の一行(齋藤院長以下2名)が、7月19日に来られました。西群馬病院は、所在地の渋川市立渋川総合病院と平成27年度の開院をめざして統合し、新たな地に病院を新築することが決まっています。当院自体、まだまだ安定飛行には入っていないのですが、すでに、他の病院からその運営について注目されているということです。

最後に、ある患者さんとそのご家族にお礼を述べたいと思います。当院に入院されていて亡くなられた患者さんのご家族のご厚意により寄付をいただきました。それにより、1階エレベーターホール、各階エレベーターホールにオブジェを設置しました。作品は柔らかなイメージで糸と木で作られたものです。当院には絵や飾りが全くなく、無愛想で殺風景といわれてきました。ひとときホッとする作品を本当にありがとうございました。

## ロンドン、東京、札幌、沖縄 ——2012年に思うこと

呼吸器内科医長  
鎌田 有珠



ロンドンオリンピック凱旋パレードの余韻残る中、銀座での買い物の道すがら、あるテレビ局のスタッフから声をかけられた。著名人の認知度を年代別に調査する目的のインタビューとのことであった。示された写真は「ウサイン・ボルト」。オリンピック・ヲタの小生は即答した。

思えばリアルタイムでオリンピックを見たのは東京オリンピックからであった。白黒テレビの中でも重量挙げの三宅選手の金メダルは輝いていた。ロンドンでの健闘とは異なり、水泳は不振の極みであった。来る日も来る日も表彰台は遠く、最終日の男子800m自由形リレーで唯一のメダルを獲得した。満を持して掲揚された日の丸は大切に保管されていたらしく綺麗に折り目がついていた。

札幌オリンピックが開催されたのは8年後の1972年であった。高校入試の直前ではあったが、志願者数が定員を大幅に下回り全員合格することが確定していたので心置きなく観戦した。70m級ジャンプ。この機会に白黒から買い換えたカラーテレビで見た日の丸は目映いばかりに鮮やかであった。

日中国交正常化、沖縄復帰など我が国の歴史上重要な出来事が相次いだ年でもあった。

結核は緩徐な経過をとる慢性感染症である。感染から発病まで時間を要するため、感染にとどまっている段階で将来の発病予防を検討することが可能である。

発病の診断は胸部X線写真、検痰などで行い、感染の診断にはツ反が用いられていた。未感染の個体はツ反陰性、感染後に陽転する。

感染からの発病減少、特に小児の重症結核減少の目的で我が国ではBCGが行われている。

BCGの影響によってもツ反は陽転するため、結核感染のみを知ることが極めて困難となる。これがツ反の最大の弱点であった。

沖縄は長らく米国の統治下にあったため、BCGは行われていなかった。日本人の純粋な結核感染状況を知りうる唯一の地域であることに注目した研究者がいた。多数の住民にツ反を行い、各年代における結核既感染率を報告した。

その後の蔓延状況の推測は、ほとんどがこの大規模な疫学研究を基礎としている。

近年、クオンティフェロン検査が開発され、BCGの影響を受けず結核感染のみを知ることが可能となり、ツ反は過去の遺物となりつつある。

しかしこの研究の素晴らしさは決して色褪せるものではない。

沖縄復帰を結核疫学研究の絶好の機会と捉えた着想、更に実際に多数の住民に地道にツ反を行った情熱と行動力。

沖縄復帰から40年。改めて先人の偉大さを思う時、自然と頭が下がるのである。

## 引き継ぐべき「古い」技術

呼吸器外科医長  
大坂 喜彦



年を経る毎に医師の高年齢化が進んでいた当科に、本年度は久しぶりに若い医師に赴任してもらうことができました。若いといってもまもなく10年目になろうという経験で、即戦力として大抵のことはまかせることが可能で助かっています。呼吸器外科領域で現在は標準といえる胸腔鏡手術はここ10年間程度で開始され急速に普及した技術ですので、実は我々の年代も10年目の医師も胸腔鏡手術の経験年数には差がないといえます。最新の技術についてはかえって若い医師の知識に負けそうなことも珍しくはありません。我々の年代が先輩としての面目を保っていられるのは、胸腔鏡手術以前の「古い」技術・知識の蓄積のおかげとっていました。しかし実は「古い」と思っていたこれらの技術・知識は胸腔鏡手術以外の手術の接する機会の少ない若い医師の目には、習得すべき魅力的な知識として写っているようです。

(なるべく遭遇したくありませんが)手術中の副損傷へのとっさの対処のための緊急開胸のためには、いわゆる標準開胸の知識・経験が必須です。しかし多くの疾患に胸腔鏡手術が第1選択となる現在では、若い医師が標準開胸の経験を重ねることはなかなか困難のようです。当院では結核・非結核性抗酸菌症の治療も行っており、これらの疾患では標準開胸での手術を選択せざるを得ない事も多く、経験を積み重ねていただくことができるのではないかと思います。

結核が呼吸器外科の扱う疾患の中心であった時代には肋骨床開胸・開胸開窓術・胸郭成形手術なども日常行われていました。これらの技術は現在あまり行われなくなっており、我々の年代でも「国立療養所」での勤務がなければ実際の経験はない外科医も珍しくありません。しかし実はこれらの手技は重篤化した症例でいざというときに実に役立つ手技です。何処でも誰もができるべき手術とまでは言えませんが、何処かで誰かができるよう途絶えさせず引き継ぐことが必要です。山の手便りの原稿依頼をうけ色々思いをめぐらせるうちに、当科にはニッチな領域ですがこれらの「古い」知識の財産がたくさんあることに気がつきました。

今後これらの「古い」知識をできるだけ若い医師に引き継ぐことも自分の仕事なのかなと殊勝な心掛けになりましたが、同時に自分もついに後輩への技術の継承などということを考える年齢になってしまったのかと思うとほんの少し寂しい気持ちにもなりました。

## 糸と木のレリーフ

企画課長  
早坂 良教

当院に入院していた患者様のご家族よりご厚意で寄付をいただき、そのご家族にも病院にも記念となるようなもので残したいと考え、院内にレリーフを設置しました。

作品は、タピストリー作家として活動している佐伯和子さんのもので、糸と木を使用し色と質感にこだわった作品となっています。各階エレベーターホールに設置しておりますので、是非ご覧ください。

### □1階エレベーターホール

タイトル『花咲くところで』

病院の基本方針にある「自然」をモチーフにイメージした作品です。

### □2～5階エレベーターホール

タイトル『糸の葉』

各階で色を変えており、自然の色彩カレンダーとなっています



(糸の葉)

### □2階廊下

タイトル『おしゃべりな花』

緊張感を解きほぐすよう明るく楽しいデザインにしています。



(花咲くところで)

## 職場紹介

### 3-2病棟

看護師長 高桑 由貴

3-2病棟の紹介をさせていただきます。呼吸器内科は医師4名(うち1名は結核と一般呼吸器疾患の一部を担当)、肺癌患者様の検査・診断・化学療法、気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎・呼吸不全・呼吸器感染症の治療、呼吸器外科は医師2名、肺癌・胸部異常陰影に対する胸腔鏡下生検、呼吸器外科疾患・感染性肺疾患の外科治療、重症筋無力症に対する拡大胸腺摘出術等を行っています。また、消化器内科・消化器外科の検査や化学療法の短期入院の患者様が入院治療されています。看護スタッフは、看護師長・副看護師長と17名の看護師・看護助手2名で日常生活援助をはじめ、がん化学療法、術後ケア等の入院生活・治療を安全・安心・安楽に過ごして頂けるように日々頑張っています。

特にがん化学療法実施件数は月80件以上で昨年度実績1200件弱、院内で一番多く実施しています。急性期・慢性期・終末期の患者様・御家族の気持ちに寄り添う看護を心がけています。どうぞよろしくをお願いします。



### 救命救急センター

看護師長 余田 睦美

西区で初めての救命救急センターとして一昨年開設されました。当救命救急センターは生命に危険のある重症の病気やケガにより救急車で搬送される患者様を24時間体制で受け入れる第三次救急医療施設です。ショック、急性呼吸不全、急性腹症、急性中毒、急性腎不全、重症外傷、重症熱傷、急性心筋梗塞や急性大動脈疾患、脳卒中等の重症な患者様の救急搬送に対し診療を行っています。救急搬送された患者様はまず救急処置室で診療を受けていただき、入院が必要な場合には集中治療室(ICU)、救命病棟等に入院となります。救急専門医や各専門科医師による急性期治療を行います。ICUでは疾患を問わず、重症患者様に対して治療を行います。



また、災害発生時には災害派遣医療チーム(DMAT チーム)の派遣など、災害医療活動も行なっています。活気ある職場で非常にやりがいのある部署です。

救急搬送された患者様の診療が円滑に行われ患者様が回復できるよう、スタッフ全員で最善をつくしております。よろしくお願いいたします。



(写真は掲載許可を得ています)



## インターシップ研修を受け入れて

7月27日に、将来看護師を目指したい看護師の仕事を知りたいと考えている高校生みなさんに、職場体験をしていただきました。初めは緊張した様子でしたが、患者様との会話や足浴等の場面で、「ありがとう、気持ち良かったよ。」と言って頂き、弾けるような笑顔になっていました。今回の体験を通して、ますます看護師になりたい、看護師の職業に関心が強くなったという感想をいただき、看護の喜び・やりがいを伝える事の大切さと責任を感じた1日でもありました。今後も看護の先輩として、地域への貢献・将来の看護師育成に取り組んでいきたいと思ひます。

## 第9回 日本難病医療ネットワーク研究会

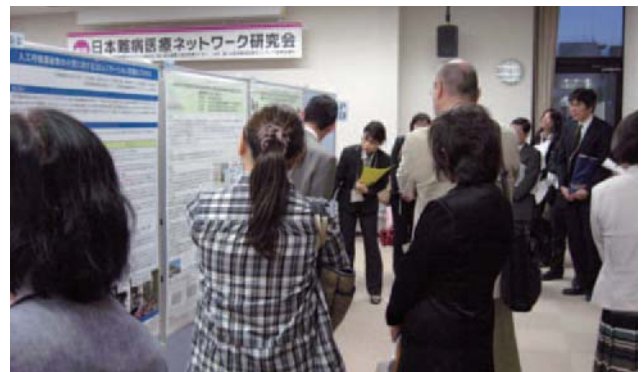
台風17号が列島を縦断し猛威をふるう中、晴天の札幌で9月28日(金)、29日(土)に全国から延べ343名の医療従事者等を迎え、北海道医療センター主催で「第9回日本難病医療ネットワーク研究会」が開催されました。

この研究会は、来年度より学会に昇格となりますが、最後の研究会に花を添えるべく過去の研究会と比較しても出足から多くの参加申込及び演題登録があり、事務局としても盛会を予想しておりましたが、当日参加の50名弱の方々も加わり予想を大きく上回る盛り上がりとなりました。

また、参加者の親睦を深める懇親会も日中の盛り上がり之余韻を持ち込み、過去最高の100名を超える参加者の元、研究会同様の盛り上がりを見せました。



主催者代表挨拶(菊池院長)



ポスター発表会場風景

## 第13回西さっぽろ癌談話会

今年で第13回を迎えた「西さっぽろ癌談話会」が9月28日(金)に札幌ホテルヤマチで開催されました。今年の一  
般講演は札幌市西区琴似で開業されている坂本医院の院長坂本仁先生から「在宅におけるがん患者のターミナル  
ケア」のお話を長年集めたデータを基に在宅の実態について発表があり、在宅ケアの理解が更に深まる有意義  
な講演でした。次の特別講演では北海道大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野の教授坂本直哉先  
生から「C型肝炎診療の現況と将来展望」について、最新のC型肝炎治療のメリット、デメリットの大変貴重な話、  
更に専門医が少ない事実を実感した講演内容でした。



坂本 仁 院長



坂本 直哉 教授

## 平成24年度国立病院機構北海道医療センター結核医療研修会

平成24年10月6日(土)、北海道医療センター主催、北海道、札幌市、北海道医師会、(公財)北海道結核予防  
会後援で結核医療研修会が開催されました。研修会は、当院呼吸器内科医長鎌田有珠の司会で、院長菊地誠志の  
挨拶に始まり、結核病棟看護師本間祐美から当院が行っている結核病棟出前講座の取り組みや課題などを紹介、  
次に、皮膚科医長廣崎邦紀が抗結核薬による薬疹等の治療方法などを解説しました。特別講演は公益財団法人結  
核予防会結核研究所副所長加藤誠也先生より「我が国の今後の結核対策」の題目で、患者発見方法から接触者検  
診の現状と課題、診療報酬改定、新しい診断法・新抗結核薬の話など多岐にわたる内容を具体的データ提示を交  
えわかりやすくお話いただき、参加者からも大変参考になったとの意見を多くいただきました。



廣崎 邦紀 皮膚科医長



加藤 誠也 副所長

**国立病院機構  
北海道医療センター**

# 市民向け講演会

入場無料

## 講演会

15:00~16:00

### 「寝たきりにならないために」

脳神経外科医長 あじき 安喰 稔

**日時** 11月3日 (土)  
14:00~16:00

**場所** 西区民センター  
(3F 区民ホール)  
札幌市西区琴似2条7丁目

公共の交通機関をご利用ください

◆ **無料測定コーナー** 14:00~14:50

- ✦ 血管年齢測定
- ✦ 体組成測定 (体脂肪率、筋肉量、推定骨量、体内年齢、内臓脂肪等)
- ✦ 運動代謝測定

「体を動かして代謝を上げよう! ~あなたの年齢・体重からどのくらいカロリー消費するのかお教えます~」

※ 人数制限のあるコーナーは整理券を発行します。

◆ **無料相談コーナー** 14:00~14:50

気になっていることや不安なこと、気軽にご相談下さい

- ✦ 健康相談 (脳神経外科医師、看護師)
- ✦ お薬相談
- ✦ 栄養相談
- ✦ 医療・精神保健福祉相談 (医療ソーシャルワーカー)

~「介護」や「心と体の福祉」に関する相談を賜ります~

◆ **その他** 14:00~14:50

- ✦ 塩分の多い食品の展示
- ✦ 減塩食品サンプル配付 ※数量限定
- ✦ ポスター展示「体の中を見てみよう!」  
~CT、MRIなどの最新画像診断機器のご紹介~
- ✦ ポスター展示「脳卒中の薬物治療と地域医療連携について」

お問い合わせ先

独立行政法人 国立病院機構 **北海道医療センター**

〒063-0005  
札幌市西区山の手5条7丁目1番1号  
TEL 011-611-8111 (代)

## クレジットカード デビットカードでも、 診療費のお支払いが できます。

◎**取扱い可能なカード会社**  
JCB、ビザ、マスター、ダイナースクラブ、  
アメリカンエクスプレス、Jデビット加盟銀行

◎**支払可能回数**…1回、3回以上、リボ払い

◎**取り扱い時間**…平日・休日 (24時間)

※ただしデビットカードについては、発行会社により一部お取扱いできない時間帯がございますので、ご了承ください。その他詳細は、1階医事⑤⑥番料金支払窓口でお尋ねください。





独立行政法人 国立病院機構

# 北海道医療センター

## 第11回 地域医療連携 症例報告会 特別講演会

日時：平成24年11月14日（水） 18:30～

場所：国立病院機構北海道医療センター 5階 大会議室  
（札幌市西区山の手5条7丁目 Tel：011－611－8111）

後援：北海道医師会、札幌市医師会【予定】

### プログラム

講演 18:30～19:00

#### I. 症例報告

「重度心身障害施設からご紹介いただいた症例のまとめ：特徴と問題点について」  
総合診療科 武藤 晴達

II. ミニクチャー 「巨大結腸について」 総合診療科 五十嵐 友美

#### III. 特別講演 19:00～

### 「高齢化の進む重度心身障害施設の問題点：現状報告」

社会福祉法人札幌緑花会

大倉山学院 院長 出店 正隆 先生

この研修会は北海道医師会の承認を得て、北海道医師会認定生涯教育講座（1.0単位）として開催いたします。【カリキュラムコード 14（医療と福祉の連携） 15（臨床問題解決のプロセス）】

- 本講座は、北海道医師会が生涯教育制度に則り参加された方々のデータを登録いたします。芳名、医籍登録番号の記載にご協力下さいますようお願いいたします。
- ご記入いただきました情報は、本講演会実施報告書の作成のみに使用いたします。

### 編集後記

本年4月に発行した第3号の編集後記に「厳しい寒さは4月に入っても退却を拒み、～」と書きましたが、今年の厳しい暑さは9月に入っても退却を拒み、10月になってようやく秋らしくなってきた今日この頃です。

今月号は研修会、講演会等の報告やお知らせに紙面を割きましたが、病院内では接遇研修会やQC講演会なども実施しています。

患者サービス向上委員会から提案された、「あいさつ運動」も始まりました。なにやら色々なところが同時にスタートした感がありますが、患者様や地域の医療機関の皆様から、「北海道医療センターは変わった」と思われるよう、ひとつひとつ課題に取り組んでいくことにしています。

発行責任者 事務部長 小野寺 正逸

# 外来担当医師一覧

(平成24年10月12日現在)

【受付時間】午前8:30～11:00 午後1:00～3:00(一部の科のみ)  
 ※1)土曜・日曜・祝日は休診

国立病院機構 北海道医療センター

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考	
内科	リウマチ科 (膠原病)	午前 午後	市川 —	竹内 市川	市川 —	竹内 市川	市川 竹内	午後は完全予約制
	呼吸器内科	午前 午後	小倉 中山	山本 —	中山 —	小倉 網島	山本 —	午後は完全予約制
	呼吸器内科②	午前	鎌田	—	網島	—	鎌田	午前診療のみ
	糖尿病・脂質 代謝内科	午前 午後(再診)	中垣 担当医 中垣	加藤(雅) 担当医 加藤(雅)	加藤(雅) 担当医 加藤(雅)	加藤(雅) 中垣 加藤(雅)	加藤(雅) 担当医 中垣	初診は午前のみ 火・水・金曜日の担当 医はオンコール対応
	消化器内科	午前 午後	中原(初診) 大原	木村(初診) 葭内	渡邊(初診) 大原/中原 大原	葭内(初診) 木村 —	担当医(初診) 渡邊 —	初診/再診 完全予約制 完全予約制
	消化器・アレルギー科	午前	田中(道)	田中(道)	—	田中(道)	—	
	腎臓内科	午前 午後	宮本(再診) —	石川(初診) —	河田(初診) 河田(再診)	山村(初診・再診) 山村(再診)	河田(初診) —	総合診療科は河田医師(月～金 曜日、午前)で紹介制/腎臓内科 初診と兼任/月曜日午前再診のみ
	循環器内科	午前	岡本(初診) 野澤 佐藤(不整脈)	寺西(初診) 井上(仁) 乗安	佐藤(初診) 寺西 竹中	岡本(初診) 小松 藤田	竹中(初診) 寺西 武藤	初診/再診 再診 再診
		午後 (予約)	岡本 武藤(SAS) 佐藤(不整脈)	寺西 井上(仁) 乗安	岡本 寺西 竹中	岡本 武藤(SAS) 藤田	竹中 — —	午後は予約制 ※SAS=睡眠時無呼吸症候 群の専門外来(予約制)
	神経内科	午前 午後(一般) 午後(専門)	藤木 新野 田代	菊地(誠) 土井 藤木	南 新野 —	土井 藤木 —	南 菊地(誠) —	月曜日午後の難病相談 外来は北海道難病医療 ネットワークからの紹介患 者様に限る 午後完全予約制
外科	外科	午前 午後	高橋(宏) —	蔵谷 —	伊藤 菊地(健)	植村 —	岡田(奇数週) 担当医(偶数週) 第4週・高橋(宏)	木曜日午後は完全予約制 第4金曜日はストマ外来
	呼吸器外科	午前	井上(玲)	—	大坂	—	井上(玲)	午前診療のみ
	心臓血管外科	午前	—	石橋(初診) 川崎	—	石橋(初診) 森本	—	
	整形外科	午前	新納 宮城	宮城 —	高橋(土) 新納	高橋(土) —	宮城 新納	初診/再診 再診
		午後	—	—	高橋(土)	—	—	午後完全予約制
	リハビリテーション科	午前	高橋(土)	—	—	—	—	午前診療のみ
脳神経外科	午前 午後	安喰 —	安田 —	担当医 —	牛越 牛越(脳血管治療外来)	担当医 —	水・金曜日の担当医は初診のみ 木曜日午後は専門外来 【完全予約制、初診は紹介のみ】	
小児科	午前(一般)	荒木	長尾	長尾	荒木	田中(藤)		
	午前(専門)	長尾(神経・成長発達)	荒木(腎臓)	荒木 田中(腎臓、偶数週) 田中(藤)(遺伝・代謝・ 遺伝カウンセリング、奇数週)	長尾(遺伝・代謝・ 遺伝カウンセリング)	長尾(アレルギー)	完全予約制	
	午後(紹介・ 予約制)	田中(藤)	森井	荒木	長尾	田中(藤)	紹介又は予約制	
	午後(専門)	荒木(腎臓)	田中(藤)(遺伝・ 代謝・遺伝カウンセリング)	若井(脳波・神経、第1・2・3週) 荒木(腎臓)	森井(小児保健)	荒木(腎臓)	完全予約制	
泌尿器科	午前	第2・4月曜のみ 笹村/清水	笹村 —	清水 —	笹村 —	清水 —	午前診療のみ 午後は検査・手術	
婦人科	午前 午後	内田(初・再診) 齋藤/大隈(再診)	大隈(初・再診) 河井(再診)	齋藤(初・再診) 齋藤(再診)	女性医師外来 10:00～14:00	河井(初・再診) 河井/天間/内田(再診)	木曜日は女性医師による診察 午後完全予約制	
皮膚科	午前 午後	廣崎 塚本	塚本(予約制) 廣崎(アレルギー・腫瘍)	廣崎 塚本	廣崎 塚本	廣崎 塚本	火曜日完全予約制 午後は予約制専門外来 【第3週を除く火曜日午後】	
耳鼻咽喉科	午前 午後	鈴木/前田 鈴木/前田	担当医 —	— —	鈴木/前田 —	鈴木/前田 —	火曜日完全予約 制	
眼科	午前	中村/金(ジン)	中村/金(ジン)	中村	中村/金(ジン)	中村/金(ジン)	午前診療のみ	
精神科	午前	担当医(初診) —	松永(初診) 岩田(再診)	岩田(初診) 神(再診)	担当医(初診) 松永(再診)	神(初診) 担当医(再診)	当院入院中の方 のみ	

※都合により、代診・休診となる場合がございますので、事前にお電話にてご確認ください。(代表 011-611-8111)